

# I 区がめざす将来像をお示しします

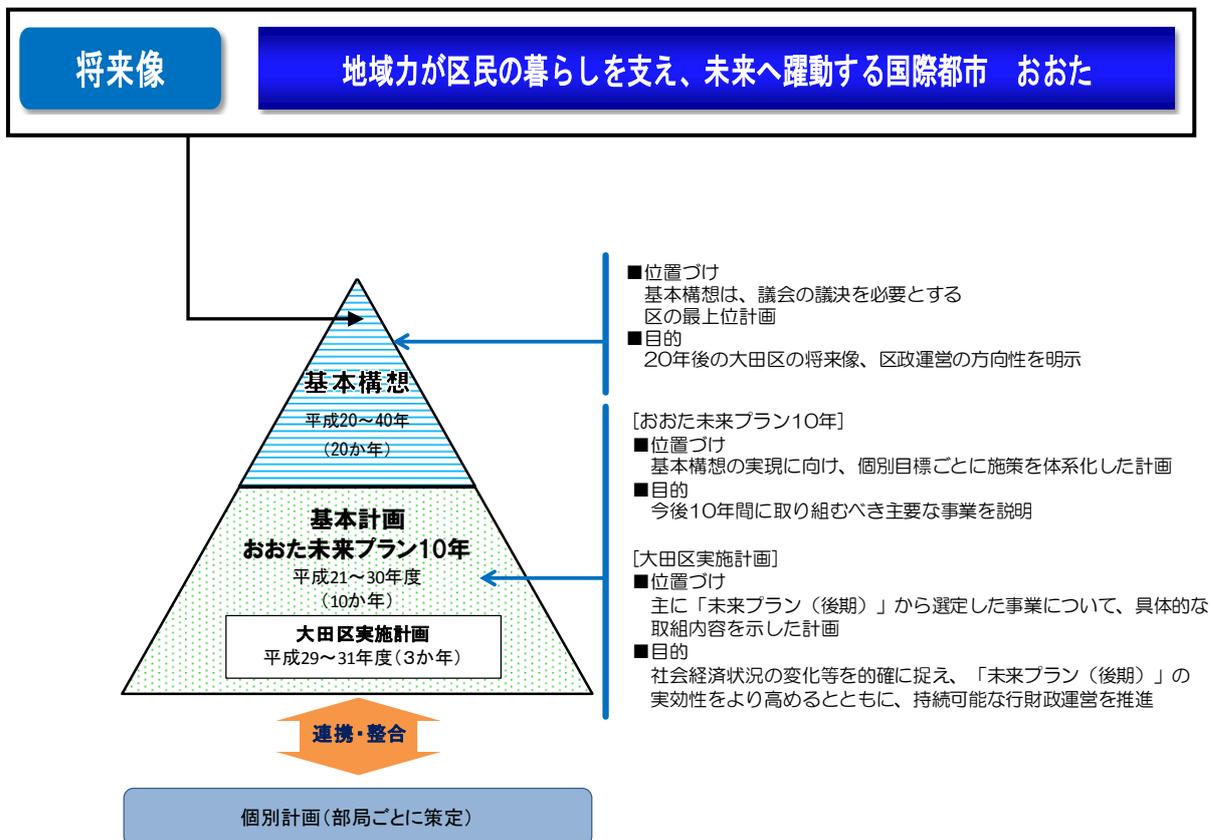
## 1 大田区基本構想・おおた未来プラン 10年・大田区実施計画

大田区基本構想（以下、「基本構想」という。）は、平成20年10月に区の最上位計画として区議会で議決されました。「基本構想」では、20年後のあるべき姿である将来像を「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」とし、区が行う全ての事業は、この将来像の実現に向けて実施しています。

「基本構想」の議決を受け、区は、基本計画である「おおた未来プラン10年（後期）」（以下、「未来プラン（後期）」という。）を平成26年3月に策定しました。また、「未来プラン（後期）」策定後に生じた社会経済状況の変化等に的確に対応するため、平成29年3月に「大田区実施計画」を策定し、新たに8つの重点事業を追加しました。

「未来プラン（後期）」に掲げる主な事業は、将来像を実現するために着実に推進しなければならないものであり、区は毎年その進捗状況を公表しています。また、「大田区実施計画」に掲げる事業については、「未来プラン（後期）」の実効性を高め、将来像実現をより確かなものにするために重点的に取り組むものであり、その推進に当たっては、社会経済状況の変化等を踏まえた検証・見直しを毎年度行い、この結果を予算と連動させ、常に計画の最適化を図ることとしています。

### （1）大田区の将来像及び行政計画の体系



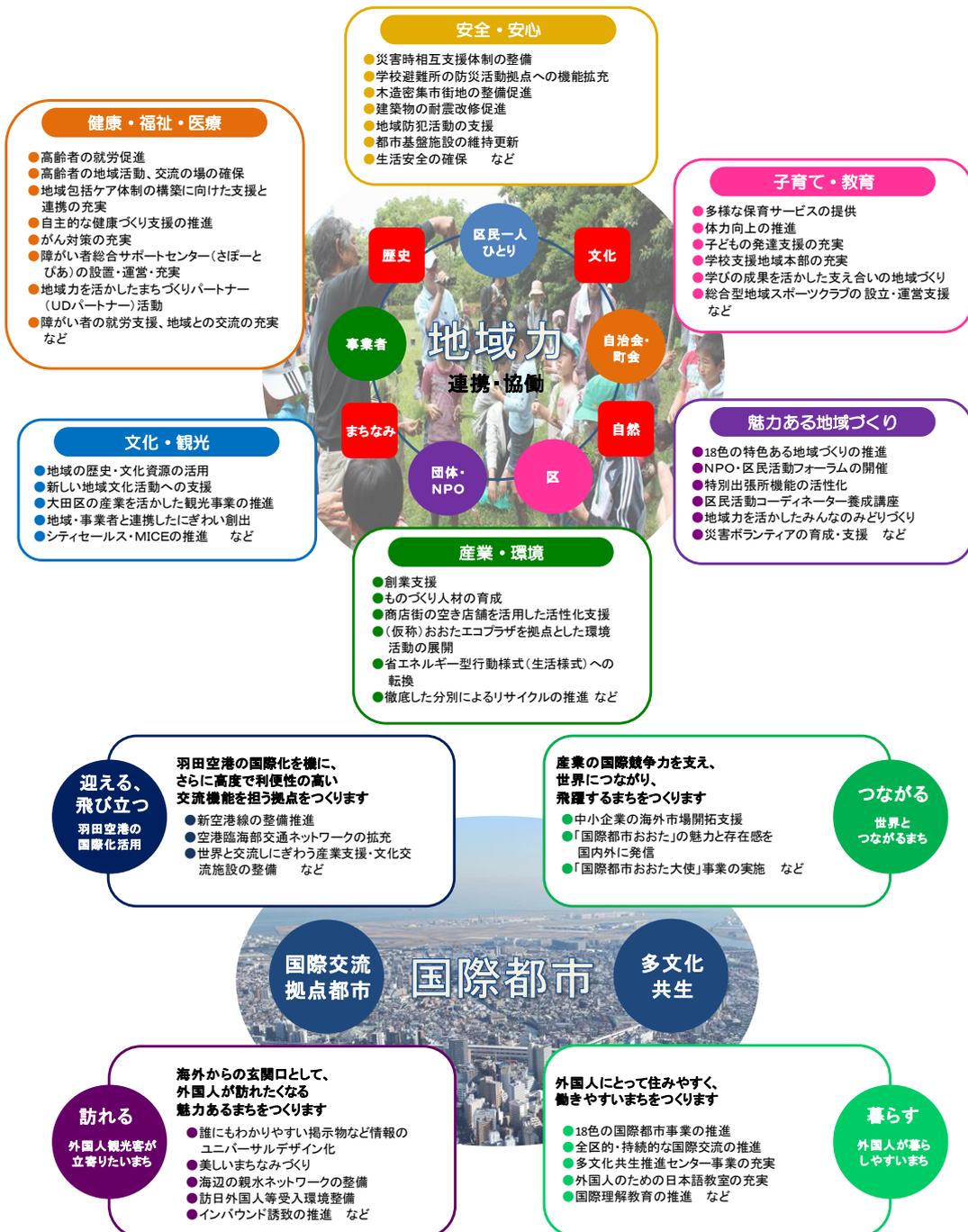
## (2) 「地域力・国際都市 おおた」をめざして

区は、「基本構想」に掲げる将来像の実現に向けて「地域力」と「国際都市」の2つのキーワードを区政推進の理念としています。

「地域力」とは、区民一人ひとりの力を源とし、複雑多様化する地域課題に区と地域が連携して取り組むことで、魅力ある地域を創造していく力と定義しています。

「国際都市」とは、「人・もの・技術を世界に送り出している大田区が、都市と人々をつなぐ役割を担う姿」とし、地域力と同じく区の将来像に掲げているものです。

区は、平成29年3月に「国際都市おおた宣言」を行い、平成29年12月には「国際都市おおた協会」を設立しました。引き続き「地域力」と「国際都市」を柱とし、さらに魅力溢れるまちづくりを進めていきます。



### (3) おおた未来プラン 10年の基本目標別決算額

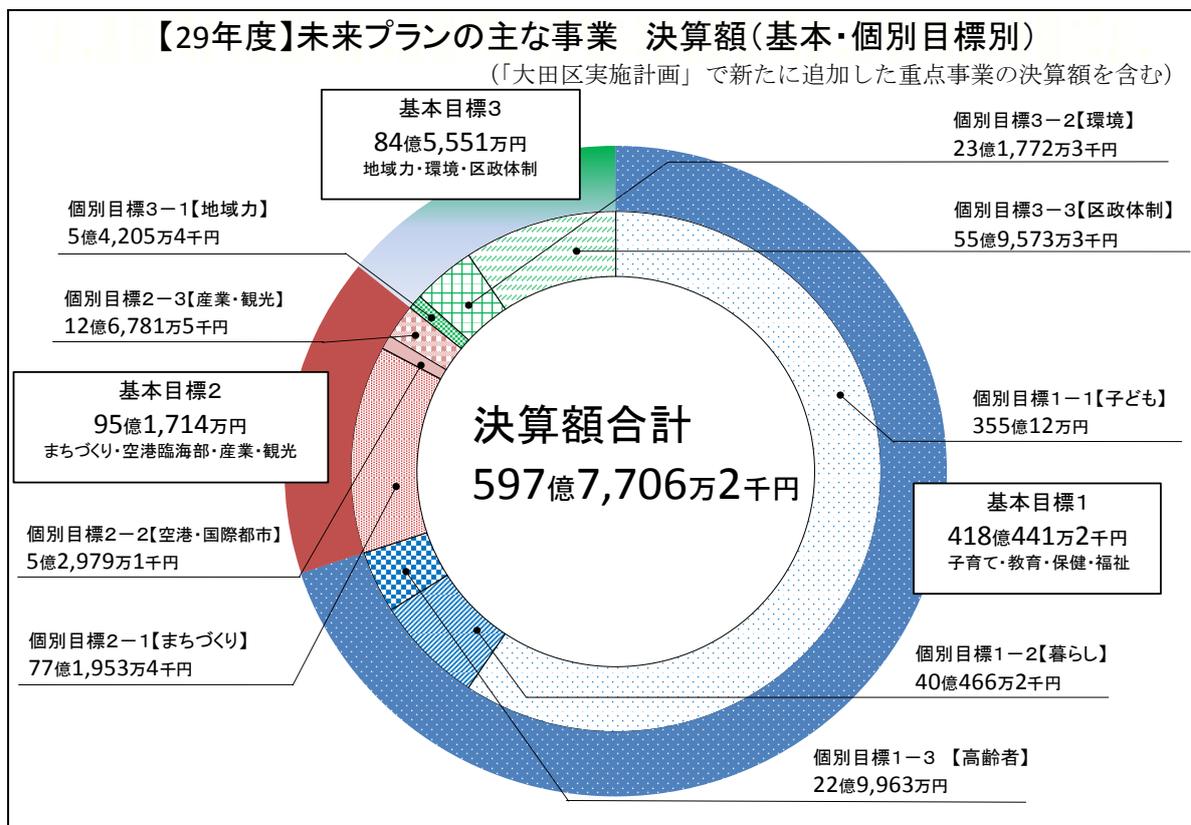
「未来プラン（後期）」は「子育て・教育・保健・福祉」領域、「まちづくり・空港臨海部・産業・観光」領域、「地域力・環境・区政体制」領域に区分し、それぞれの領域ごとに基本目標と個別目標を掲げ、将来像の実現をめざしています。

平成 29 年度の主な事業における決算額は、基本目標 1 『生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち』では、私立（認可）保育園の整備に 143 億 6,622 万円、区立保育園の運営・拠点機能強化に 37 億 3,893 万円、ICT 教育の推進に 12 億 2,066 万円などとなっています。

基本目標 2 『まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市』では、地域に根ざした公園・緑地の整備に 9 億 3,693 万円、建築物の耐震改修促進に 6 億 3,995 万円、都市基盤施設の維持更新に 6 億 2,024 万円などとなっています。

基本目標 3 『地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち』では、災害用非常食糧の確保及び備蓄物品の充実に 1 億 2,486 万円、徹底した分別によるリサイクルの推進に 16 億 4,647 万円、大田区公共施設整備計画の推進に 48 億 4,164 万円などとなっています。

未来プラン事業の成果は、「主要施策の成果※1」において公表しています。平成 29 年度は、主な事業における取り組みのうち、9 割を超える取り組みが計画どおり又は計画を上回って進捗しており、着実に未来プランを推進することができたと考えています。



#### 【用語解説】主要施策の成果※1

地方自治法第 233 条第 5 項の規定に基づき、毎年度主要な施策の事業内容と決算額を分野ごとに取りまとめ、「主要施策の成果」として公表しています。

## 2 大田区の人口

### (1) 大田区の人口増減

平成30年1月1日時点の人口は723,341人、前年から6,046人の増となっており、特別区の中で3番目に多くなっています。

人口構成では、年少人口（0歳から14歳）が11.07%、生産年齢人口（15歳から64歳）が66.16%、老年人口（65歳以上）が22.77%となっています。特別区合計と比較すると、老年人口の割合がわずかに高くなっていますが、全国合計と比較すると年少人口、老年人口の割合は低く、生産年齢人口の割合が高くなっています。

また、年齢3区分ごとの増減としては、年少人口、生産年齢人口に比べて老年人口の伸びが大きくなっています。

(単位：人)

		合計	年少人口	生産年齢人口	老年人口
			0歳から14歳	15歳から64歳	65歳以上
大田区 (平成30年1月1日現在)	人数	723,341	80,089	478,574	164,678
	割合	100.00%	11.07%	66.16%	22.77%
大田区 (平成29年1月1日現在)	人数	717,295	79,776	474,392	163,127
	割合	100.00%	11.12%	66.14%	22.74%
増減	増減数	6,046	313	4,182	1,551
	増減率	0.84%	0.39%	0.88%	0.95%
特別区合計 (平成30年1月1日現在)	人数	9,396,593	1,065,140	6,300,868	2,030,585
	割合	100.00%	11.34%	67.05%	21.61%
全国合計 (平成30年1月1日現在)	人数	127,707,189	15,950,238	76,963,206	34,793,745
	割合	100.00%	12.49%	60.27%	27.24%

※住民基本台帳に基づく平成30年1月1日現在の人口にて比較。

※年齢不詳者を含んでいない。

### (2) 日本人・外国人内訳

大田区における外国人人口は22,860人であり、特別区のなかでは7番目に多い人数となっています。総人口に占める割合としては3.16%であり、特別区平均を下回る数値となっていますが、全国合計と比較すると多くの外国人が住んでいることとなります。

(単位：人)

	合計	日本人人口	外国人人口	外国人人口の割合
		A	B	
大田区	723,341	700,481	22,860	3.16%
特別区合計	9,396,595	8,956,636	439,959	4.68%
全国合計	127,707,259	125,209,603	2,497,656	1.96%

※住民基本台帳に基づく平成30年1月1日現在の人口にて比較。